

第2学年 社会科学学習指導案

対象 2年1組 男17名, 女17名 計34名

指導者 小笠原 巧

- 1 単元名 第3章日本の諸地域② 日本の中央部 4 中部地方～産業を中心に考えよう
教材名 主教材 「中学地理 地域に学ぶ」 (教育出版)
補助教材「アクティブ地理日本」 (浜島書店)

2 単元について

(1) 生徒について

本単元に関わる, 既習事項(学習内容)についてレディネステスト(事前アンケート)を行ったところ, 次のような結果となった。

地理の学習に興味がある。	興味がある	13% (32人中 4人)
	どちらかというに興味がある	38% (32人中 12人)
	どちらかという苦手	47% (32人中 15人)
	苦手	3% (32人中 1人)
わかったことや考えたことをまとめて表現することが得意だ。	得意	6% (32人中 2人)
	どちらかという得意	47% (32人中 15人)
	どちらかという苦手	38% (32人中 12人)
	苦手	13% (32人中 4人)
複数の資料を関連づけたり, 組み合わせたりして, 読み取る。	得意	13% (32人中 4人)
	どちらかという得意	44% (32人中 14人)
	どちらかという苦手	34% (32人中 11人)
	苦手	13% (43人中 4人)

上の表の通り, 地理の学習に興味はあるが, 表現することや複数の資料を読み取ることを苦手とする生徒が多い。本単元では, 生徒の興味・関心を高められるような資料を導入で提示したい。また, 生徒が課題解決に応じた表現や読み取りができるように, 授業の見通しを持って展開するように指導したい。

(2) 教材について

本単元では, 小学5・6年生で学習した産業や世界とのつながりと中学2年における世界から見た日本の地域的特色の産業や世界との結びつきの2つの既習事項をもとに, 中部地方における地域的特色や課題を, 産業を中核として考察し, 表現する。単元を通して, 中部地方で工業, 特に自動車の生産が盛んなのはなぜかという問いをたてて, 自然環境や人口, 交通・通信, 歴史などの側面から調べ, 地域的特色の成立条件を明らかにしていく。

(3) 指導について

本単元では, 中部地方の特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し, 表現する力を育成することを主なねらいとしている。

中部地方は産業に特色のある地域である。それを踏まえ, 産業を中核とした単元の課題をたて, 東海, 中央高地, 北陸の3つの地域で行われている産業の成立条件を, 統計資料や写真, 主題図などをもとに考察し, 表現する活動を行う。そのような学習活動を通して, 思考・判断・表現する力を育てるとともに, 自分たちが暮らす滝沢市の産業についても関心を高められるようにしたい。

3 単元の目標

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度

中部地方の特色ある産業に関する事象を他の事象と関連付けながら, 学習しようとする。

(2) 社会的な思考力・判断力・表現力

中部地方において, 地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核とした社会的な事象の成立条件を, 自然環境や交通・通信などに関する事象と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し, 表現することができる。

(3) 資料活用の技能

中部地方において、産業を中核として地域的特色を追求するために、統計資料や主題図を適切に選択、活用して、図表などにまとめることができる。

(4) 社会的事象についての知識・理解

中部地方における地域的特色や地域の課題を理解する。

4 指導と評価の計画

時	学習内容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考力・判断力・表現力	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
小5	農林水産業や工業の特色、貿易や運輸の働きについて理解する。	日本の産業について関心を持ち、特色や課題を調べようとする。	日本の産業の現状を調べ、産業が盛んな理由や課題の解決に必要なことを考察している。		
小6	日本は外国と経済や文化などの様々な面でつながっていることを理解する。			グラフや写真などの資料から、日本と外国のつながりを調べている。	
中2	1 中部地方の自然環境や区分、発展について理解する。			主題図やグラフなどから中部地方の特色を読み取っている。	中部地方の自然環境や区分、発展について理解している。
	2 本時 東海地方における工業の特色を理解している。		東海地方で工業が盛んな理由を、地域間のつながりや歴史と関連づけて考察し、表現することができる。	写真や主題図から、東海地方の工業の特色を読み取ることができる。	
	3 東海地方での第一次産業の発展と漁業の現状について理解している。	東海地方の農業の特色や漁業の課題について関心を持ち、これからの漁業の展望について考えようとしている。			東海地方の農業の特色や漁業の現状について理解している。
	4 中央高地における農業や工業、自然環境を生かした観光業について理解している。	観光業の特色や課題の解決に向けた人々の取り組みについて関心を持っている。			中央高地における産業の特色やこれからの取り組みについて理解している。
	5 北陸地方における産業の特色と課題について理解する。		北陸の産業の発展を自然環境や歴史と関連づけて考察し、表現する。	写真や主題図から、北陸地方の産業の特色を読み取っている。	
中2	身近な地域の諸事象について観察・調査し、特色や課題をまとめる。	身近な地域に関心をもって観察・調査し、発表しようとする。	調べたことをふまえて、地域の産業の成立要件や課題について考察し、表現する。		

5 本時の指導

(1) 目標

中部地方の東海地域において工業が盛んな理由を，地域間のつながりや歴史と関連づけて考察し，表現することができる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準
社会的な 思考力・判断力・表現力	東海地方で工業が盛んな理由を，地域間のつながりや歴史と関連づけて考察し，表現することができる。
資料活用の技能	写真や主題図から，東海地方の工業の特色を読み取ることができる。

(3) 展開

段階	学習活動	●指導上の留意点 ◎評価
導入 5分	1 問題の把握 ・ 主な工業地帯・地域の生産額の割合を見て，中京工業地帯が日本で一番の生産額を誇っていることに気付く。	●中京工業地帯が日本経済を支えていることを読み取れるようにする。
	2 課題の確認 なぜ東海地方の工業は日本有数になったのか。	
	3 課題に対する答えを予想する。 ・・・人がたくさんいるから。ものを輸出入しやすいから。	●課題を解決するためには，他地域との比較や歴史について調べる必要があることに気付かせる。
展開 40分	4 課題の解決 (1) 資料ア 中京工業地帯と阪神工業地帯を比較し，工場の分布の仕方の違いを読み取る。	●資料を読み取る時に，その資料が課題解決のために必然性があることを生徒が認識できるようにする。
	(2) 資料イ 1930年代の豊田市と2016年の豊田市の地図を比較し，紡織工場がたくさんあった地域で，昔から工業が盛んだったことに気付く。	●歴史的に工業が盛んだったことに気づかせるとともに，どうして紡織から自動車産業に変わったのか疑問を持つるようにして，資料を読み取る視点を明確にもたせる。
	(3) 資料ウ 豊田市の歴史と豊田式自動織機を見て，豊田市は、以前は挙母市という町であることや，紡織で利用していた織機の技術を自動車生産に応用したことに気付く。	◎写真や主題図から，東海地方の工業の特色を読み取っている。(ワークシート)
	5 複数の資料から課題の答えを考察する。 ・ 個人→グループで交流→グループごとに考察の結果をまとめる→学級全体で交流。	◎東海地方で工業が盛んな理由を，地域間のつながりや歴史と関連づけて考察し，表現している。(ノート) ●机間巡視しながら全体的によく書けているグループや，歴史・交通・立地のいずれかを詳しく書けているグループに当てて，効果的な全体共有にする。

終末 10分	6 まとめ	
	<p>【まとめ 例】</p> <p>東海地方は車の部品や完成車の輸送がしやすい環境にある。また、昔から工業が盛んで、その技術を利用して自動車産業が発展した。現在、豊田市にはトヨタの本社と、その周辺に関連工場があり、地域全体で生産をしているため、日本で一番の生産額を誇っている。</p>	
	7 振り返り	●授業を通して考えたことや思ったことを書かせる。
	<p>【振り返り 例】</p> <p>中部地方にトヨタの会社や工場があるのは知っていたが、昔の人たちがもっと工業が盛んになるように港や道路を整備したり、それまで行っていた紡績業を変えて自動車工業に変えたりと、色々な努力を重ねてきたから日本で最も生産額が多いんだと思った。</p>	
	8 次時の確認	●東海地方の第一次産業について学習することを確認する。

(4) 板書計画

